

第3回 第5期武蔵野市廃棄物に関する市民会議要録

- 【日 時】 平成26年6月16日(月) 午後7時00分～9時00分
- 【場 所】 武蔵野クリーンセンター 3階見学者ホール
- 【出席委員】 阿部迪子 石川洋一 岡内歩美 加藤慎次郎 狩野耕一郎
(敬称略) 木村 浩 迫田洋平 田口 誠 竹下 登 中里陽一
西上原節子 能勢方子 花俣延博 古川浩二 山谷修作
- 【事務局】 大野課長 齋藤副参事他
- 【欠 席】 なし
- 【傍 聴】 1名
- 【配布資料】
- 資料1 武蔵野市ごみ減量協議会提言一覧と進捗状況管理表(平成25年度末時点)
武蔵野市ごみ減量協議会の活動状況と、ごみ市民会議における検討要請事項
 - 資料2 クリーンむさしのを推進する会活動報告資料
 - 資料3 今回のごみ市民会議での議論のポイント
 - 資料4 三多摩の各自治体における諸データの比較表

1 開 会

【委員長】

これから、第3回武蔵野市廃棄物に関する市民会議を開催する。

2 議 題

(1) 前回会議要録の内容確認について

【委員長】

特にご意見等がなければ、ご承認いただくということによろしいだろうか。(一同承認)

(2) 現行基本計画の課題整理について

①武蔵野市ごみ減量協議会提言一覧と進捗状況について

【委員長】

今回は武蔵野市ごみ減量協議会の方からの提言及び進捗状況、そしてクリーンむさしのを推進する会の活動について、ご説明を頂く。その後、ごみ市民会議での議論のポイントについて事務局からご説明頂くということで進めてまいりたい。それでは最初に西上原委員と竹下委員からご説明をお願いしたい。

《西上原委員より、武蔵野市ごみ減量協議会の活動状況と、ごみ市民会議における検討要請事項について説明があった。》

《竹下委員より、武蔵野市ごみ減量協議会提言一覧と進捗状況管理表（平成 25 年度末時点）について説明があった。》

【委員長】

委員の皆様から何かご質問があれば。

【A委員】

（資料 1 の「提言一覧と進捗状況管理表」の）「容器包装」の「3 傘袋の変更（スーパー）」これはどういう意味か。

【B委員】

スーパーやコンビニで雨の時に入れる傘袋をやめようという話だ。事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】

スーパーの方と相談したが、あの袋を無くして濡れた傘を店内に持ち込んでしまうとつるつる滑ってしまい、営業上、お客様の安全を考えて廃止できないという話だった。

【A委員】

コミュニティセンターでもはじめは傘立てに傘を入れてもらっていたが、間違いと盗難が多く、私たちもやむを得ずビニール袋を置いて自分の席へ持っていくようにしている。間違いは仕方ないが、にわか降ってきたときは傘が盗られてしまうという実情だ。

【委員長】

使用后、プラスチック製の傘入れはリサイクルに回らず可燃ごみとして処理されるのか。

【事務局】

スーパーで使われた傘袋については事業系のごみになるため、産業廃棄物として処理される。よって、リサイクルには回っていかないというのが現状だ。

【委員長】

事業系プラスチックということで産業廃棄物になると。

【C委員】

(資料1の「提言一覧と進捗状況管理表」の)「紙」の項目で、長期目標のところに「自主回収・集団回収の倍増・行政回収の半減を目指す」とあり、自主回収・集団回収の倍増、推進や推奨はわかる気がするが、行政回収の半減を目指すことによって、紙の排出量が減るのかどうかかわからないのでご説明を頂きたい。個人的に調べたところ、仙台市の可燃ごみのうちの約4分の1が紙類だという資料を見たことがある。ということは、紙類の排出量を減らす工夫をすれば、ごみ全体量が減るのではないかと感じた。

【事務局】

「紙」のところの「自主回収・集団回収の倍増・行政回収の半減を目指す」というのは、ごみ減量協議会の第1期あるいは第2期の頃の目標・提言だったかと思う。今ご質問があったように、集団回収を増やしても紙ごみの発生量総体は変わらない。行政でやるか民間でやるか、その区分けの問題である。本来は発生量全体を抑えるという風にならないといけない。また、長期目標だけでなく、今回の減量協議会の検討要請事項「(2)紙の資源化③」にも一定の問題提起が書いてあるので、今後、ご検討いただければと思う。

【D委員】

以前、ごみ減量協議会の委員をしていたので補足を。紙資源は約15,000tあり、行政回収は約8,000tで50%、集団回収は約3,000トンで20%、新聞の販売店による自主回収は約4,000tで30%というのが実情。市の処理費用の面で考えると、自主回収はゼロ。集団回収は当時、出した人たちに対し10円/kg、手伝った事業者に2円/kg、計12円/kgだったが、行政回収は20円/kg程度かかった。それで、紙の回収については将来的に行政回収をやめて、全面的に集団回収なり自主回収に向かえないかという考え方を出した。また、15,000tのうちの材質でいうと、新聞は約50%、雑紙・雑がみは約40%、段ボールは約10%。これを頭に入れながら方策を考えていくことが重要だと思う。

②クリーンむさしのを推進する会の活動等について

《石川委員より、クリーンむさしのを推進する会活動報告資料について説明があった。》

【E委員】

東急百貨店の地下の食料品売り場は「レジ袋を断ると井の頭動物園に寄付します」というカードを置いているが、他店は2円引きという中で、なぜ東急は地域貢献のような形でやっているのか、もし関連があれば知りたい。

【F委員】

一般的に2円引きというのは私の地元でも他のスーパーでやっていただいているが、お

金を引くというのは百貨店の性格上難しいため、実際にはエコポイントというものを付けて差し上げており、1ポイントが1円ないしは東急百貨店のClubQポイント1.5ポイントに換算できるという形をとっている。それ以外にレジ袋を削減いただいた方に1枚につき2円、井の頭動物公園に寄付しているが、ことの発端は正直なところわからない。かなりの年月やっているが、元々は何か市内の貢献にというところから、武蔵野市を代表する動物として象のはな子さんを支援できないかということで、井の頭公園に対するいろいろな活動の一環として寄付をさせていただき、市民のみなさんのあたたかい心を啓発できればということで始めている。我々から提案したのか、井の頭公園さんから何かできないか言われたのかについては当時の担当者が店にいないため具体的にはわからないが、たとえば以前あった伊勢丹さんもいろいろなところで寄付行為をやっており、百貨店には地域に貢献していくということが一つ求められるのかなと思う。

【D委員】

10年前からマイバッグ運動に関わってきたが、当時お店へ行く度に「レジ袋要りますか？」と聞いてもらえば、いい加減お客さんはマイバッグを持ってきてくれるだろうという発想があった。当時、実際に1円を取るという店があった。その店では、1円を取るということだけでかなり年配の人も何か袋を持ってくるし、若い人は裸で持って帰るなど、みんなレジ袋をもらわないで帰ったという事実を見て、1円でも良いからお金を出してもらうことを広げられないかということ考えた。そのうち5円という話が出てきて、5円を取り出した。レジ袋は1円か2円もしないのに5円も取るから儲かるわけで、そのまま利益にするのもどうかということで社会的に還元するという流れになった。ところが、不景気から5円ではもう無理だという話になり、次第に還元するのも2円ぐらいになり、今は「2円引き」という我々が望んでいたような形になった。西友さんなんかを見ていると、ポイントをやってレジ袋の辞退率はせいぜい50ぐらいまでしかいってなかったのが2円を取るということがあって、今は辞退率は70から80程度いっているのではないか。そういう流れがあったかと思う。

【G委員】

スーパーのいなげやでは、レジ袋をご辞退のお客様には2円引きと、一部の5店舗（杉並区の2店舗と日野市の3店舗）に限り、1枚5円で販売して有料化している。杉並区は区全体が有料化しなさいという条例を作ったので、これに準じている。日野市は、5年前に杉並と同じような流れを作りたいということで市内のスーパーに有料化を協力してほしいと言われた。有料化になった当時、日野の店長を私がやっており、従来は無料で配っていたものが有料化になったため、有料化に変わったことをご存じないお客様は意地でも払わない、両手で持って帰るという光景もあった。有料化しているところについて、レジ袋の辞退率は85%を超えている。その他の、2円引きをしているいなげや全体では平均して

40%、武蔵野市の3店舗は50%を超えているが、エリアによって非常に違う傾向になっている。港区、世田谷区は30%を切っており、行政の処理価格が安いと言ったら失礼になるが千葉エリア、横浜エリア、このあたりは40%を切る。三多摩だけを見ると、武蔵野の実績が多分50~55%だと思う。もう一つ、行政からの依頼でレジ袋を5円で販売しているところに関しては1枚あたり70銭から一番大きなものでも3円ぐらいしかしない。よって、間をとって2円をお引きするというのが世の流れかと思う。弊社の場合、行政の指導で5円で販売している杉並と日野の5店舗は、差額分を全部集めて、お店から一番近い小学校に苗木などを寄付している。クリーンむさしのを推進する会、武蔵野市ごみ減量協議会の市民の皆様は協定を作ってトライアルするという努力をされているので、スーパーとしては協力したい。ただ、小売として、行政が主導で有料化に踏み切るときには是非、杉並のように市内全部・区内全部というところをお願いしたい。私が日野で店長をやっている有料化に変わった時に、やはり数%お客様が減った。私の店の直近300mのところ有料化に賛同しないスーパーが5店舗あったので、そちらの方に行ったと思われる。それも含めて、市民団体の皆様が地道に活動していくのか、あるいは行政が主導で有料化するとした時には市内全部というところを要望したいと思う。

【委員長】

やはり、競争には中立的にでないといけない。

【C委員】

マイバッグ活動のところで議論に無かったコンビニのレジ袋辞退率38%という数字は、5人に2人は辞退されるという数字だと思うが、私の実体験からすると、ほとんどの方は小さな袋でたばこ1箱、牛乳1本などの感じに入れられていることが多い気がするので、この数字はいつ頃、どこで調査された数字なのか教えていただきたい。

【D委員】

コンビニの全国の協会が定期的に調べているようで、その協会の筋から1~2年前に得た情報。コンビニは通勤の帰りなどに買うため、マイバッグを持っていくのに抵抗があると一般的に言われる。しかし、武蔵野の場合は全国で一番高くなっている。一時は30%ぐらいだったのが、上がって行って38%になったと聞いている。

【H委員】

朝一番隊という活動があり、駅周辺の美化活動は周辺の商店街の方に任せていて、朝、普通の日にコピスさんやアトレさんや銀行などが一生懸命、ビニールの袋を持って掃除をしている姿を見る。それは、クリーンむさしのがやっているのを見て始めたのか、それとも商店街のIさんたちのグループが始めたのか、どうだったのか。とても良い光景だと思う。

うので継続していただきたい。

【I 委員】

各通りの掃除はそれぞれの商店会が人を雇って毎日やっているが、駅前周辺は商店街ではないので、5つの商店会（元町、ダイヤ街、サンロード、平和通り、公園通り）が交代で行うことになっており、日曜日は人が多いためごみも多く、月曜日の朝にやっている。すると約2ヶ月に1回から1.5回順番が来る。朝9時から掃除を開始して、駅前のロータリーの部分は行うようになっている。少なくとも20年近くは駅前の清掃というのは商店会が順番にやり、その他に市長がお見えになるごみゼロデーや秋の駅前周辺一斉清掃がある。駅周辺から商店街の朝は常にとにかくごみの清掃で始まるような感じになっているので、ポイ捨てや吸い殻なども吉祥寺ではそんなには目立たないとは思っている。三鷹・境の方はあまり見てないが、吉祥寺はそんな感じですずっと続けている。

【委員長】

市民団体である減量協議会とクリーンむさしのを推進する会が、色々と市のごみ減量や美化に貢献されている実態がよく見えてきた。

③今回のごみ市民会議での議論のポイント

「事務局より、今回のごみ市民会議での議論のポイント（及び三多摩の各自治体における諸データの比較）について説明を行った。」

【委員長】

議論をする際に押さえておきたいところを、簡潔に説明していただいた。

【D委員】

資料3で、ごみの10年計画に平成37年までと書いてあるが、最後のゴールが平成37年になった時に600gだという理解でよろしいか。我々が作っているこの計画は平成27年に始まって最後が平成36年という理解だったので。

【事務局】

ご指摘のとおり、5年後の目標640gは平成31年で、10年後の目標が平成36年だ。

【委員長】

この目標の家庭ごみだが、可・不燃、粗大、そして資源を含むということで見ると発生抑制を重視しているのとらえてよろしいか。

【事務局】

そうだ。

【委員長】

しかしながら、それだとリサイクル率や事業系ごみなど漏れる部分も出てくる。そのあたりはまた副次的な目標設定という形でフォローするのか。

【事務局】

ここにお示ししたのは発生抑制ということだが、当然今の計画もリサイクル率や他の数値も出ているので、今後その部分についても目標値を設定していくということになる。

【委員長】

その場合、並列していくつかの目標値を設定するととらえるのか、あるいはこの資料に出てくるような発生抑制を一番上位において副次的な目標という位置付けでリサイクル率や事業系のごみ減量をとらえるということだろうか。焼却施設の整備費用が大変ということから可燃ごみで設定する自治体もあれば、埋立処分が大変ということで埋立処分量を目標に設定する自治体も結構あるが、武蔵野市の場合はその基本的な目標設定をどのように決めていこうと考えているのか確認したい。

【J委員】

今のごみ処理基本計画では、かなり事細かく目標設定がされていて、このごみ減量目標やリサイクル率など全て網羅してやっているところ。事務局から説明があったように現時点で減量目標は多摩地区の平均とは61gのギャップがあり、「チャレンジ600」というキャンペーンをやったものの、武蔵野特有の複合的な要素でこの減量目標は今後なかなか簡単にはいかないのではないかと思う。先ほどのグラフでもかなり下げ止まり状態になっており、どこをどうできるのかということが今の課題となっている。逆に委員長がおっしゃったように、ターゲット、目標を絞り込む方法もあるのではないかと思った。6年前に作ったごみ処理基本計画の時は、まだ減らせる要素があったために達成できるような目標だった感じがするが、今後どうしていくのかを今回のごみ排出実態調査結果も踏まえて事務局の方で考えていきたい。今日お示しした中で、市民のごみ減量資源化行動がないとやはり減らないのではないかということの一つあるので、ただ単に施策で絞り込むのではなくて、市民の方にもある程度全市民的にやってもらうような行動を何かしてもらわなければいけないということをご議論いただきたい。特に市民委員の方々については市民の目線から、ご提案やご発言がいただければと思っている。

【副委員長】

私もグラフを見ていて思ったが、結局多摩地域の平均値と武蔵野市のギャップというのを経年で追いかけていくと、ほとんど同じような下がり方をしている、かつ多摩地域の平均はもうここ3年ぐらいほとんど変わっていない。この数値を見ながら、600gという目標を立てるのは非常に難しいのではないかと個人的に感じた。

【I委員】

グラフが全般的に同じように下がっているが、バブルがはじけた約二十数年前からそれ以降はごみがずっと減り続けていると思う。年末の行政収集がなかった時代に吉祥寺のまちで収集車を4、5台呼んでごみ収集を行った記憶がある。昭和の後半から平成5、6年頃まで続いたと思うが、それ以降年末のごみの量が極端に落ちた。景気が悪くなってごみが減っているのは事実。お店のごみはどんどん減ってきており、特に吉祥寺の場合、個人のお店は行政収集しているところも相当数ある。当時、年末のごみ収集で立ち会いを毎年やっていたが、景気が悪くなってごみが減るという傾向は感じていた。現在はアベノミクスと言われているが、飲食から物販など吉祥寺にあるいわゆる小売業者にはまだその消費まで来ていない。政府の景気動向調査などに出る「小売」には百貨店やスーパーに関してのデータが出ているだけ。商店会などのお店の景気が上向くのはさらに遅れる。吉祥寺の周りでは、飲み屋さんがばたばたと潰れている。そういう意味でも、ごみの量が右肩下がりなのは景気が後退しているからという面もあると思う。

【D委員】

可燃・不燃・資源といった形で分けて多摩の平均などが出る。武蔵野市のごみの特質は、多摩の平均に比べると約60gの差がある。具体的に可燃で見ると武蔵野の方が24g多いが不燃は22g少ない。これは可燃と不燃を足せば同じような数字になっているということ。武蔵野は不燃だったプラスチックも資源化したり可燃にしているが、他の自治体で不燃にプラスチックが残っていればその差で入れ替えられる。結局多い要因は資源。多摩の平均から見れば、資源の差が40～50gぐらいということは60gの大部分は資源と言える。その中でさらに武蔵野の場合は紙の資源が一般的なところと比べると多いので、まずはそこを追究すべきではないか。紙の消費は文化のバロメーターと言われるように、所得が多いから新聞も取るだろうし紙の消費も多いという見方も一つあるが、逆に若い人は新聞を取らないことも多い。近隣市との比較で三鷹を見ると武蔵野と60g差があるものの可燃だと三鷹の方は80g低い。不燃も案外低く資源についてはそんなに差がないことから圧倒的に可燃が低い。三鷹や西東京と武蔵野がどう違うのか、行政側で情報を取って調べていただきたい。たとえば武蔵野は小規模事業者のごみが35gで、三鷹が20g程度出しているとすれば15gは武蔵野の特色にはなるが35g全てが多い要因というわけではないはず。「チャレンジ600」なら単に600gになれば良いということではないし、多摩の平均を目指すとした

とき、多摩の平均が下がっていったらそれに合わせていかなければならない。こういう考え方は市のこの案に入っていると思う。しかし、今はある程度 614 g と横ばいで推移してきていて実際に 5 年後、10 年後にどうなるかはわからないので、今後ずっとやってもせいぜい 600 g なら 600 という数字で良いと私は思う。10 年間で 675 g を 600 g にするには、1 年間に約 8 g ずつ減らす必要がある。だいたい、年間で 1,000 t 減らせば原単位が 20 g 減る計算になるが、一年間に 7～8 g 減らすのは難しいのだろうか。たとえば、紙が 40%、生ごみが 30%、プラスチックが 15%、あとはその他というのを一つの組成としたときに、掛け合わせれば生ごみが仮に 40% だとしても 1 日平均 2～3 g 減らせば良いという数字になる。市から出された資料の考え方では、60 g 減らしてあくまでも多摩の平均を目指すということを基本に、前半 5 年で 35 g 減らしてから後半 5 年で 40 g 減らそうとしているが、逆に前半は 1 年に 10 g ずつ、5 年で 50 g 減らして後半 5 年で 35 g 減らすなど、先にある程度減らしていくぐらいの計画を立てても良いのではないかと。10 g 減らすというのは先ほどの目安で言うと 500 t になるが、500 t 減らすためには種類別にどうやったらできるだろうかとということはある程度実行計画で揉んでみると。実際にやって無理だったら直していけば良いので、初めから難しいものを除外して達成しやすいものを作るのはどうなのだろうかという気がする。

【委員長】

具体的な数字が出てくるので非常に説得力のあるご意見のような気がするが、発生抑制という先口からするとなかなか難しいところもあるのでは。

【D委員】

本来、ごみを考えるときは家庭から出るもの全部を対象にまず考えるべきではないかと。ただ、資源化率を 30% から 38% ぐらいに上げていくというのも今までの計画にはある。資源化率を上げるというのはとにかく資源にすれば良いではないかということで、それではごみが減らないのではないかと私は前回計画の意見書では反対した。要するに、発生抑制でまず最初に徹底的に減らし、それをさらにリユースして最後にリサイクルできないかと。これはみなさんの同意を得られないとだめだと思うが、今回の計画では 2R を徹底させていくということを基本の考えにしていくのが良いのでは。

【B委員】

難易度は様々だと思うが、これから 10 年間でできる施策としてどんなものがあるか検討し、その施策を積み重ねていって結果的に何 g 減るという決め方をした方が良いのではないかと。仮にあらかじめ 670、600 と決めても数値だけを追い求めがちになるのではないかと。

【D委員】

それに反論させていただくと、数字を出し、その数字を実現するためには何をやらせたら良いかという実行計画を立てるとのこと。実行計画が立てられなかったらその数字は無理だということになる。それが無くてただ施策をやって何の施策をやればどのぐらいになるかというその施策を決めるためには…

【B委員】

それは実行計画。それであればその計画が実現可能な実行計画だということで私が言わせていただいた。

【D委員】

たとえば5年間で1年に10グラムぐらいつ減らすということを実行計画の数値目標としたときに、ではその5年間は何を指して何をやらせたら良いのかということそれぞれ紙、生ごみ、プラスチック容器、その他、と考へ、出てきた施策を実際に1年やってみてそこまでいかなかったらまた見直すというように、少なくともトレースできるものを計画としては作らないと。今までのように実行計画が無いまましていると、数字だけ先にあって、という風になってしまうのではないかと。色々な施策が考えられるが、何を重点的にやってPRすれば市民にやってもらえるかを絞っていかないといけない。それが実行計画だと思う。

【委員長】

資料4で武蔵野市の特徴を見ると、一番はっきりしているのは所得がずば抜けて高いこと。ごく一部にもものすごい高額所得者がいて、その人たちが一人当たりの数字を押し上げているのか、それともほぼ平均的に所得水準の高い人が多いのか、この見極めはどうか。所得水準の高い人が多いとすれば、当然消費量も多い。新聞を2～3紙取っていたり冷蔵庫が2つあるなど、物をいろいろ買うとなると、発生抑制を進めるにあたって非常に至難の業だがそのあたりはいかがか。

【J委員】

本当の高額所得者は10%で、この層が市の税収のかなりの部分を賄っていただいているが、やはり全体としても高いのではないかと思う。所得が高い、平均世帯数が極端に少ないなどのことが複合的に絡んでポディブローのように効いているのかとは思いますが、先ほどあったようにいろいろな調査をしている中で、三鷹と比べるとほぼ同じなのに可燃ごみだけが圧倒的に違い、何が武蔵野の特徴なのか考えている。私も市長と「武蔵野はやはり所得が高くて購買力があるのだろうか」という話をしたが、それを立証できるようなデータがない。そこで、感覚的なことで構わないので、3人の委員の方からお店として武蔵野市は

特徴的に購買力があるとか、何かあれば教えていただきたい。

【I 委員】

データは特に無いが、長財布の中に 300 万円から 500 万円は常に入っており、百数十万円の眼鏡を買ってもまだ 300 万円以上確実に残っているようなお金持ちのお客さんも吉祥寺、武蔵野には確かにいらっしゃる。全般に所得水準が高く、良いものは結構売れる。それから高齢化が非常に進んでいるように感じる。データでは目立って高くないが、私の家の周りはみんなお年寄りで、ご夫婦で施設へ入られて空き家になっているところやご主人が亡くなって一人暮らしをされている 70~80 歳のおばあちゃんなど、そういう方が多いように感じる。居住年数が短いとのデータだったが、吉祥寺本町 2 丁目の東急百貨店裏側あたり、吉祥寺南町 1 丁目から 3 丁目、4 丁目、5 丁目、吉祥寺東町の 1 丁目から 2 丁目、3 丁目このあたりは相当に高級な住宅街で、老夫婦 2 人だけというパターンが多いととらえている。吉祥寺は通常、土日になると外部から入ってくるお客さんが 90%で、5~10%程度は吉祥寺近辺に住んでる方だが、平日になると逆転する。話を聞くと、土日の混んでいるときに行かなくても平日に行けば良いという考え方から。また、周りにはお年寄りのお客さんが多いので、雨が降ると外に出なくなり吉祥寺は極端に弱い。全般に核家族化が進んだまちであるという認識だ。

【委員長】

一人当たりの購入単価、一人当たりの売上というのはこの武蔵野市の場合が多いのか、広域で展開されている事業者の方々に聞きたい。

【G 委員】

当社の場合、基本的に郊外にある食品スーパーで日々お買い上げいただくという形なので、私が昔居た日野の店も武蔵野の店も、10 年前ということでは非常に効果の高いお店だった。お一人様の買い上げ点数と買い上げ単価も高いので客単価が高い。ただ、最近は I 委員がおっしゃったように、スーパーの場合は平均してお店から約 500m 圏内のお客様が中心になるが、そのお客様が高齢化してきているので点数は落ちている。しかし、一点単価は維持あるいは上がっているという形だ。当社は武蔵野市内に 3 店舗あるが、西久保店は近くに新しい関前店という大型のお店ができて自社競合になっているので、そうした部分でも西久保はお客様の年齢が上がって、点数が下がって、関前と競合してという形で下がっている。ただ、細かい資料は無いが、一坪当たりの売上高ということで言えば、いなげや全社の中で武蔵野の 3 店舗が上位にあったのは間違いない。

【F 委員】

私どもの場合、基本的に渋谷から神奈川にかけてがほとんど主力店舗になっており、1

店舗だけ外れたような形で吉祥寺に出店している。武蔵野の場合は渋谷地区に比べると、一人当たりの平均購買額が 1.5 倍、川崎から横浜の店舗に比べても 1.3 倍という形で非常に購買力が高い。ただ、そちらに比べるとお客様の数が少ない、地域の皆様に支えられて運営しているお店だと思う。かつては広域で中央線も八王子を遥かに越したところからお客様が来ていたが、百貨店自体が衰退していく中で、14 年前から地域に密着した形で展開する形に切り替えたところ、非常に購買力のあるお客様が来ていただき、人数は少なくても売り上げになっている。年齢構成について細かい数字はオフィシャルにできないが、資料 4 にある武蔵野市の老年人口率を見て正直低いなど感じたぐらい、購買金額から言ってもかなり 60 歳以上のお客様に支えられている店。前回、高齢者のごみの排出量が多いという話が出ていたが、購買力があるということは当然ごみになるものも出るもので、違和感はない。「エコ」ということで百貨店の場合はこれまでいろいろやっているが、たとえば簡易包装をしようとする、「百貨店なのになぜそういうことをするの」と言われることもある。購買力のある人が買うということは、ごみが付随してきているのかなという思いもあり、高齢者や高所得者が多いというのは自分の住んでいるまちと比べても、感覚的に全然違うと思う。私の住んでいるまちはスーパーで買うのが普通だが、多分うちの店の周りに住んでらっしゃる方々は百貨店でスーパー並みの買い方をするのが普通で、もう少し良いものを買うとなると日本橋や銀座へ行くという形になるのではないかと。G 委員のところは商圈が 500m とおっしゃっていたが、当社は多分 3 km 圏内ぐらい。年齢の高い方はバス、もう少し若い 60～70 歳ぐらいの方は自転車を活用して来られることも多く、非常に元気な方がいらっしゃるの購買力も上がるのかなと感じている。

【委員長】

消費行動はライフスタイルにビルトインされているので、これはよく分析してかからないといけない。他市都市との行動的な違いもかなりあるのかなという感じがした。

(2) その他

≪ 9 月・10 月については、配布した日程確認表をとりまとめて事務局が調整する。 ≫

3 閉会

【委員長】

これにて閉会とする。

以上